

単位数	2	授業形態	講義
担当教員	大西 敏夫 ・ 岸上 光克		
実施日・時間	11月6日(金)	17:30~20:40	
	11月7日(土)	9:30~15:00	
	11月13日(金)	17:30~20:40	
	11月14日(土)	現地調査	
	11月27日(金)	17:30~20:40	
	11月28日(土)	現地調査	

※14日と28日の両日の現地調査は、田辺地域の都市農村交流施設、農産物直売所、林業経営者、農業経営者、食品産業経営者を予定しています。

#### 【講義内容】

食料は、私たちの「命や暮らし」の基盤である。しかし、その食料をめぐる見過ごすことのできない問題がわが国において噴出し、山積している。特に、世界最大の食料輸入国であり、人口1億人以上の人口大国でありながら食料自給率の著しく低い日本において食料問題は深刻かつ重大である。

近年、食育基本法の制定など国民の「食」に関する関心は高まりつつあるが、「食」への関心の高さに比べて、その根源ともいべき「農業・農村」への理解・関心が充分とはいえない。しかし、食料自給率の向上や食の安全・安心を求める声の増大、地産地消やスローフード運動の広がりなどのなかで、日本農業に対する期待や農業・農村のもつ多面的な機能に対する評価・関心は高まりつつある。

このような状況のもと、全国各地では地域農業活性化に向けて創意工夫を凝らした取り組みがみられる。

そこで、本講義では最近のわが国の食料・農業・農村をめぐる現状・実態を座学とフィールドワークの両側面から学ぶとともに、今後の課題および展開方向について考える。

なお、フィールドワークでは、施設見学や現地の方との意見交換会を実施します。

#### 【テキスト・教材】

講義内容に関するレジュメを適時配布します。また、必要に応じて、視聴覚教材（ビデオ等）を使用します。

#### 【事前学習】

特に必要ありません。わが国の食料・農業・農村問題に関心をお持ちの方ならどなたでも受講できます。